



競技ダンス ジャッジシステム

2025/07/17

目次

1	目的と背景	P3
2	現状の問題	P8
3	現状の解決案	P9
4	システムの概要	P10
5	現状の進捗	P12
6	今後の課題と方針	P13
7	まとめ	P15

目的と背景

- ・ 競技ダンスとは
- ・ 大会のジャッジシステム

競技ダンスとは

男女のペアで様々な種目を踊りフロアで複数組み踊っている中でジャッジが評価（チェック）した数が多い人が勝ち残っていく





大会のジャッジシステム

10組以上のペアがフロアの中で同時に踊る

その周りを約7～11組のジャッジ（審査員）が囲む

ジャッジは良かったカップルに得点を与え、ジャッジペーパーに記入する

全てのジャッジペーパーを回収し、予選の場合は、得点が一定値を超えたペアが次のラウンドに進む、決勝の場合は順位がつく

実際の大会の風景



現状の問題

大会でのペーパーレス化が進んでいない...



ヒューマンエラーが多い



大会の運営の遅延→会場の延滞料金の発生



現状のシステムでも年間維持に200万以上

現状の解決案

学生主体だからできること



大会管理を行うシステム、アプリの構築

メリット

- ・ヒートの出間違え、採点ミスなどのエラーを抑えることができる
- ・ジャッジの効率化、採点結果をアプリで通知。紙不要

会場の延滞料金が抑えられる！

システムの概要

審査員が評価した結果を送信

サーバーで結果を処理

アプリに反映

潤滑な大会進行

UIについて

必須✓数 72/105

現在の✓数 84/105

▼1H3/10

1	10						
○	×						

▼2H3/10

--	--	--	--	--	--	--	--

▼3H3/10

▼4H3/10

スマホ用

1. 次のラウンドに挙げる人数と現在丸を付けた人数の表示
2. ○,×,△で選手に対する評価を記入
3. △ボタンで折りたためる

現在の進捗

実際にシステムは完成しつつある

実際の大会でテスト試用

→システムのエラーが発生し、結果が反映されなかった...

大会などを自分たちで開き、システムの修正を加えていく

今後の課題

現状できていること

- システムの大枠はできている
- 実際の大会の裏で使った
- UIの構想は完成している

現状できていないこと

- UIが完成していない
- 実際に自分たちで大会を開いて試験運用ができていない
- 正確に結果を反映できていない

今後の方針（最終的な目標）

他の団体にも波及していきたい



他団体も含めた大会を通じたデータ分析機能



よりダンスを研究できる環境の構築

まとめ

- ・ジャッジシステムを導入することにより、学生の競技ダンス団体のレベルアップが図れる
- ・システム自体は未実装で、課題点もいくつかあるという現状